

第二十七回（令和三年度）

令和独楽吟

橘曙覧顕彰短歌コンクール

主催
共催
後援
協賛

福井市・公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会
福井新聞社・NHK福井放送局
福井中央郵便局・福井本丸ライオンズクラブ・
福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会
熊本市

第二十七回（令和三年度）令和独楽吟・曙覧顕彰短歌コンクールについて

（募集期間 令和三年九月一日～十一月三十日）

福井に生きた幕末の歌人、橋曙覧（たちばなのあけみ）。曙覧が詠んだ一連の作品として『独楽吟』があります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた五二首の連作の短歌で、貧しいながらも心豊かに暮らしていた、曙覧の様々な楽しみが詠み込まれています。

平成六年、当時の天皇皇后両陛下がご訪米された折、クリントン大統領が歓迎スピーチにおいて、「たのしみは朝おきいで昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の一首を引用されたことで、曙覧と代表作の『独楽吟』に注目が集まりました。

この翌年より「平成独楽吟」と称し、曙覧の『独楽吟』の世界に学び、何気ない日常の中で感じた身近な楽しみ、ささやかな楽しみを詠んだ短歌の募集を始めました。また、第六回からは「万葉集や実朝以来の歌人」と正岡子規に絶賛され、自由で革新的な和歌を詠んだ曙覧にちなみ、「自由短歌部門」の募集もあわせて行ってきました。

今回、独楽吟部門に七四一二首、自由短歌部門に一五五七首、一三〇校から学校単位でのご応募をいただきました。ここに入賞・秀作に選ばれた全作品を掲載いたします。全国から寄せられた、たのしみの歌、こころの歌をご覧ください。

審査員 独楽吟部門

審査員長

市村 善郎 歌人

橋谷 桂子 童話作家

佐孝 石画 俳人

足立 尚計 歌人

審査員 自由短歌部門

審査員長

福島 泰樹 歌人

加賀 要子 歌人

喜多 昭夫 歌人

足立 尚計 歌人

独楽吟部門

橘曙覧賞

楽しみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき

石川県 吉本渚星

独楽吟部門 入賞作品

福井市長賞

たのしみは孫に教えたおりがみがやがて千羽の鶴になるとき

福井県 中川朝江

福井市教育委員会賞

たのしみは校長室の壁の上ずっとカメムシ居るを見るとき

岡山県 永瀬理恵

福井新聞社賞

たのしみはたおれぬようにしんちょうにまっすぐえんぴつならべてるとき

富山県 新田明日希

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみは灯りを消して兄弟でほんのりかがやくほたる見る時

福井県 山口莉絢

福井中央郵便局長賞

たのしみはたくさんきょうりゆうえにかいてばあちゃんちにもっていくとき

福井県 仲谷光志朗

熊本市賞

たのしみは兄とそだてたひまわりがぐんぐん伸びて背をぬかすとき

岐阜県 松村結愛

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは昔話を聞く子らの鼻がぷくりとぷくらんだとき

愛知県 恒川暁子

学校賞

福井県 敦賀市立沓見小学校

石川県 白山市立北陽小学校

たのしみはあわぶくぶくでさっぱりしキレイなわたしおゆつかるとき

福井県 村橋 愛羅

たのしみはずいぶん生きたつもりでも見知らぬ花にまた出会うとき

愛知県 夏目 友子

たのしみはかき氷食べ口中で夏だけの雪舞っているとき

佐賀県 田中 瑠夏

たのしみはふるさとからの豆りんご土のにほいの箱あける時

愛知県 山岸 ヒサ

たのしみは映画で泣いて横みたら母も静かに泣いているとき

福井県 山本 涼華

たのしみはいえでこっそりユーチューブママにないしょおしえないとき

福井県 中江 終人

たのしみはもうすぐ家に来てくれる小さな命待っているとき

熊本県 今坂 汐那

たのしみは母の声するおやつだよ階段ダダかけおりるとき

京都府 辻村 桃子

たのしみは夜に帰ってきた時にメダカがたまごうんでいた時

福井県 高村 心春

たのしみは冷たい指先温めて楽譜見ながら曲ひけたとき

長野県 小林 優名

楽しみはきれいな赤のひがな風がゆらゆらゆれていく時

佐賀県 久原 あい

たのしみは酔った父と冷静な兄の会話を聞いているとき

福井県 田原 桃葉

たのしみはまず一株の試し掘り甘藷の入りを確かめる時

京都府 水野 美代子

たのしみは亡母の句集を取りだして想い出たどり読みかえすとき

福井県 河村 和江

たのしみは何もしないで縁側で冬のおひさま抱え込むとき

埼玉県 鹿山 恵子

たのしみは試合に負けたその夜も素振り続ける吾子といるとき

福井県 和田 慎子

たのしみは言葉を持たぬ嬰兒が舌にて満腹いふを受くとき

福井県 高嶋 和子

たのしみは季節毎に咲く花とあなたの写真が増えていくとき

愛知県 神原 桜妃

たのしみは仕事道具を端によせ弁当箱を引き上げるとき

東京都 小澤 拓夢

たのしみは帰りの会のいい話みんなで大きな拍手するとき

福井県 アブダルサミラ

自由短歌部門

橘曙覧賞

「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中

山形県 酒井 晴 多

自由短歌部門 入賞作品

福井市長賞

鋏を振り荒れし吾が掌を包みつつ「緊い手だなー」と孫は呟く

群馬県 川野忠夫

福井市教育委員会賞

両の手に抗がん剤の一月分持つも重たしバスを待ちおり

兵庫県 加島清子

福井新聞社賞

農継ぐと言った孫から聞かされる土の匂いが好きなんだよと

神奈川県 北村純一

日本放送協会福井放送局長賞

蚊帳のうち母の嗚咽のやまざりき叔父の戦死の報せありし夜

福井県 佐々木邦子

福井中央郵便局長賞

かじかんだ両手で雪をかき分けて万両の実の輝きにあう

福井県 藤田久子

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

金星は夜勤の我ら見守りて空淡くなり静かに宙へ

福井県 山下菜香

うつすらと小口の焼くる文庫本スカーレット・オハラ的叫ぶ声する

熊本県 池崎 充徳

吾の皺の手を見るほどに母の手なり優しく撫でてあげれば良かった

福井県 新道 麗子

星の無い家路を急ぐ助手席にまだあたたかいピザまん二つ

富山県 石倉 さやか

暗い部屋わずかな明かり机の前未来のために文字書きなぐり

岐阜県 中嶋 響

認知症進みし母の独り言幼き頃の吾を案ずる

神奈川県 川口 一寿

大根の収穫に追はれし父の背の破れシャツより見へみし膏藥

福井県 永田 弘子

ケガをしておぶってくれた君の背が大きく見える秋の校庭

山形県 池野 愛梨

画面越しに我が子に会う日待ち焦がれこぼれる笑顔退院のとき

福井県 宮本 香織

戦没の大叔父の年若きこと子や孫たちに繰り返す夏

千葉県 堀 卓

コロナ禍に逝く母見舞いは制されて別れは全て事務的に済む

京都府 木下 晴生

友の逝き灯りのひとつ減る馬島波止場に立ちて島影眺む

山口県 山村 進

いわし雲ふたりで眺める帰り道手が触れるまであと10センチ

山形県 菊池 美玖

「食べられた」病の吾子の朝いちのメール確かめ食パンを焼く

大阪府 松井 詔子

ひまわりを見るためぼうし持ち出して玄関あけて庭へかけ出す

長野県 石田 そら

ぽっかりと空いた時間が虚しくて日照りの庭に水を撒きたり

茨城県 小牧 悦二郎

就職の列車の友へ車窓から駅弁渡す十五の春に

佐賀県 浦田 穂積

霜月の土間で繭炊き糸をひく鼓車の音だけやさしく響く

福井県 坂野 靖子

式挙げず記念写真に姪の着る祖母手作りのウェディングドレス

北海道 藤林 正則

灯の消えし馴染みの店のシャッターに再開告げる貼り紙眩し

神奈川県 久保田 聡

温泉に二人の叔母と語らえば私の知らない母に出合えり

福井県 加藤 文代

独楽吟部門 総評

審査員長 市村善郎

今回の橘曙覧賞には「楽しみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき」（吉本渚星）を推した。

短歌はわずか三十一文字だが、短編小説を読むような物語を表現することが出来る。今回の受賞作はそういう面を持っている。まず作者が子どもであることは「おばあちゃんち」から想像する。「おばあちゃんち」がどこにあるかを思うのも面白い。通学路に沿っているのだろうか、少し廻り道をすれば見えるのだろうか、近いのでよく顔を見に寄るのだろうか。それに「柿の木」これは一本だろう。大きくてたくさん実がなる。もちろん甘柿だろう。葉の中にまぎれて見えなかった柿の実が、少し色づいて存在を主張しはじめると「楽しみは」の基が出来てくる。小学生の歌というなかに、見えてくる風景は多いし楽しいのである。

私たちは集まった作品を審査する役なのだが、数字的に点数をつけるものではない。一読して「小さな物語」が出来るかどうかを楽しむ。独楽吟は「楽しみは」と歌い出す作者の発見した「世界」また「思想」の中に、読者としての私が入れる世界があるかどうかを楽しんでいる。軽く詠んでいただければいい。また次回も「楽しみ」を見せて下さるとうれしい。

自由短歌部門 総評

審査員長 福島泰樹

毎年思うことだが、「令和独楽吟」応募作品の方が、短歌専門誌掲載の歌人の作品より感銘深いのはなぜだろう。

そう、応募作品には生活があり、人生が在るのだ。さらに言えば、時代があり歴史がある。そして人が背負わなければならない「生老病死」があり、真摯な「祈り」があり、「労働」があり、「戦争」の記憶がある。

〈欽を振り荒れし吾が掌を包みつつ「緊い手だなー」と孫は呟く〉
〈農継ぐと言った孫から聞かされる土の匂いが好きなんだよと〉
〈金星は夜勤の我ら見守りて空淡くなり静かに宙へ〉〈蚊帳のうち母の嗚咽のやまざりき叔父の戦死の報せありし夜〉、「病」を詠んだへコロナ禍に逝く母見舞いは制されて別れは全て事務的に済む〉の作が現在を鋭く抉り、へかじかんだ両手で雪をかき分けて万両の実の輝きにあう〉には、「生」の率直な感嘆がある。

そして、〈「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中〉に接し、日本は大丈夫だの感を深めた。

受賞のごとば（独楽吟部門）

橘曙覧賞

樂しみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき

石川県 吉本 渚 星

白山市立北陽小学校

私がこの作品をつくる時、まだ柿の実が出来て色が変わっていく時でした。その時期は毎日のようにおばあちゃんと庭をながめていて「色がついてきたね」など話していました。そんな時間は気持ちがおだやかになって一番好きな時間だったのでこの作品をつくりました。私が受賞すると思っていなかったのでおどろきました。

福井市長賞

たのしみは孫に教えたおりがみがやがて千羽の鶴になるとき

福井県 中川 朝 江

孫（こども）たちは成長して、それぞれの道を歩いて行きます。

自分の生きていく場所で、誰かの何かの希望に、やさしい支えになっているといいなと思う気持ちを「千羽の鶴」に込めました。

福井市教育委員会賞

たのしみは校長室の壁の上ずっとカメムシ居るを見るとき

岡山県 永瀬 理 恵

このような賞をいただき、大変嬉しく思います。大学で学んだ橘曙覧のコンクールがあると知り、短歌の授業で生徒に交じって創作しました。臭いで嫌われる虫が、人に手出しされにくい所で冬を越そうとする。その姿に生へのひたむきさを感じ、詠んだ歌です。長い間、校長室の前を通るたび、たのしく天井を眺めていました。

福井新聞社賞

たのしみはたおれぬようにしんちようにまっすぐえんぴつならべてるとき

富山県 新 田 明日希

富山市立上滝小学校

宿題が早く終わったときや夜寝る前に一人でやっていた遊びを短歌にしました。この遊びをしているとボーっとでき、心が落ち着きました。五本ぐらい立てることができるとうごくうれしくなります。そんな私の小さな幸せや自分の好きなことを言葉で表すことができるようになりうれしいです。

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみは灯りを消して兄弟でほんのりかがやくほたる見る時

福井県 山口 莉 絢

敦賀市立粟野小学校

私がこの短歌を書いたわけは、家の前が川で、六月頃になると家からほたるが見えるからです。六月の初めから六月の中頃になるにつれてほたるの数が増えていき、兄弟で灯りを消して、「今日は何匹見つけられるかな?」「どこにいるかな?」などの会話で、毎年ほたるを見る時にわくわくしたり、楽しみがふくらんだりしました。

福井中央郵便局長賞

たのしみはたくさんきょうりゆうえにかいてばあちゃんちにもつていくとき

福井県 仲 谷 光志朗

敦賀市立香見小学校

ぼくは、きょうりゆうのえをかくことが大好きです。かいたえをなかなかあえないばあちゃんに見せるのがたのしみです。ばあちゃんは、「すごいね。」ってほめてくれるので、うれしいです。このどくらくぎんも、ばあちゃんに見せたいです。

熊本市賞

たのしみは兄とそだてたひまわりがぐんぐん伸びて背をぬかすとき

岐阜県 松 村 結 愛

大垣市立西小学校

毎年庭に、ひまわりのたねをまいているので、この短歌をつくりました。今年も、兄と水やりをしていて、私も背が高くなると同時に、ひまわりも高くなっていて、気づいたら太陽に向かって伸びていくひまわりを見上げていました。毎年ひまわりの成長を楽しみにしています。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは昔話を聞く子らの鼻がぷくりとふくらんだとき

愛知県 恒 川 暁 子

子供たち中心に語り始めて十九年目。子供たちは正直な聞き手。話に引き込まれると目と鼻がびくびく。私はどんどん楽しくなり、子供たちと同じ世界に浸っていきます。これは語り手の喜びです。

賞をいただき、これからも子供たちと一緒に語りの世界を作っていきたいと思いました。
ありがとうございました。

学校賞

福井県 敦賀市立沓見小学校

沓見小学校は、敦賀市の西に位置し、豊かな自然に囲まれています。「世界にはばたこう沓見っ子」をスローガンに全校児童八十八名の子どもたちは、元気いっぱい学校生活を送っています。

沓見っ子は、自然豊かな環境の中、季節ごとに俳句や詩を書いたり、読書に親しんだりして豊かな心を育てています。また、近年は全校で独楽吟にも取り組んでいます。

これからも自分の気持ちを表現し互いに交流を深めていきたいです。

(教諭 田結教子)

石川県 白山市立北陽小学校

以前出席した表彰式で、審査員の方が「詠んだ人の楽しんでいる姿がはつきりと浮かんでくるような歌がいい」と仰っていたのを覚えています。今回もご縁があつて橘曙覧賞と学校賞を頂くことができました。どの作品も、その子の楽しむ姿がありありと浮かんでくるものばかりです。子どもの豊かな感性とそれを伝える素直な表現に心揺さぶられる素晴らしい機会となりました。ありがとうございます。

(教諭 金子啓太)

受賞のごとば（自由短歌部門）

橘曙覧賞

「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中

山形県 酒井晴多

山形市立商業高等学校

この短歌は、夕方、自宅の玄関で友達がドアを開けて帰ろうとしている場面を詠んだものです。「またあした」から友達との別れを想起させ、赤色の夕陽に溶けて消えていく様子に寂しさを投影しました。まさか最優秀賞に選ばれるとは思わず驚きました。とても嬉しいです。また短歌にチャレンジしたいです。

福井市長賞

鋤を振り荒れし吾が掌を包みつつ「緊い手だなー」と孫は呟く

群馬県 川野忠夫

定年後近くの農園を借り、家庭菜園の真似ごとをしている日々です。

今迄使ったことのない鋤、鎌で掌は荒れ固くなってきました。ある日遊びに来ていた幼稚園の孫が、私の手に触れて「緊い手だなー」としみじみ言ったのがヒントになり出来た一首です。この度はこの作品を採って頂きました先生方に御礼申し上げます。

福井市教育委員会賞

両の手に抗がん剤の一月分持つも重たしバスを待ちおり

兵庫県 加島清子

暑いとき寒い時も大きい袋を下げてバスを待ちます、バスを待つてる人の、目線が私の方に向いているように思えてなりません。このようなくらしも四年になります、心がしずんでしまいます。その様な時心支えに短歌があります、病名は消化管間質腫瘍です。

有難うございました。

福井新聞社賞

農継ぐと言った孫から聞かされる土の匂いが好きなんだよと

神奈川県 北村 純一

『土の匂いが好きなんだよ』の孫の言葉は、照れかも知れない。一生懸命農業に精を出す姿を身近に見ていた孫が何かを感じとったからだと思う。農業の「食への貢献」「育てる尊さ」は勿論、地域を守る大切さかも知れませんが、地域の自然が再開発などで壊されつつあるので、孫に拍手を送りたい。受賞を孫と喜びたいです。

日本放送協会福井放送局長賞

蚊帳のうち母の嗚咽のやまざりき叔父の戦死の報せありし夜

福井県 佐々木 邦子

私が六歳の夏でした。母の弟の戦死の知らせがありました。毅然としているように見えた母でしたが、蚊帳をつつて子供達を寝かせたあと、悲しみがこみあげてきたのでしょうか。長女の私は母のすすり泣きの声にめざめました。いつまでもいつまでも泣き続けていた母の姿が脳裡に焼きついています。この度の受賞大変光栄に存じます。

福井中央郵便局長賞

かじかんだ両手で雪をかき分けて万両の実の輝きにあう

福井県 藤田 久子

福井の冬の厳しさに負けそうになる時、風雪に耐え、立ち続けている庭の木々や、鳥たちの姿に大きな力をもらっています。

この度は、拙歌を選んでくださいます。本当にありがとうございます。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

金星は夜勤の我ら見守りて空淡くなり静かに宙へ

福井県 山下 菜香

この度は素晴らしい賞を頂戴し誠にありがとうございます。これからも日常の小さな発見や、その時々を感じたことをゆつくりと言葉にしていく時間を大切にし、また多くの人々の短歌に触れ合いながら、相手の思いにもそっと寄り添っていききたいです。

〈独楽吟部門〉 旧名称 平成独楽吟部門

橘曙覧賞受賞作品 (第17回〜26回)

第26回 (令和2年度)

広島県 光岡 碧

たのしみは失敗しても父さんが頭ポンポンなぐさめるとき

第25回 (令和元年度)

神奈川県 井上 靖

たのしみは継ぐとは言わず真っ先に店のシャッター子が開けるとき

第24回 (平成30年度)

山形県 湯乃村 紘一

たのしみは出来たぞ孫がようやくに杉三代の苗植えるとき

第23回 (平成29年度)

福井県 丸岡里美

たのしみは異国に働く夫の膝帰ればおさなの椅子になるとき

第22回 (平成28年度)

福井県 田中美代子

たのしみは三代目の養子の雪つりに夫と似てきた姿見しとき

第21回 (平成27年度)

福井県 山本 稜

たのしみは祖父のとなりで肩ならべ見よう見まねでろくろする時

第20回 (平成26年度)

神奈川県 中嶋 恭子

たのしみは庭に遊べる小鳥らに林檎の皮を厚く剥くとき

第19回 (平成25年度)

福井県 堂島 彩愛

たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るとき

第18回 (平成24年度)

熊本県 志賀 直子

たのしみは日の射す庭に小豆干す老父母いるを里に見るとき

第17回 (平成23年度)

茨城県 田口 久子

たのしみは洗濯物を六人の家族に分けてたたむひととき

第25・26回

第23・24回

第17〜22回

〈自由短歌部門・テーマ短歌部門・一般短歌部門〉

橘曙覧賞受賞作品

第26回 (令和2年度)

東京都 野村 信廣

病床のわれにリンゴを食べさせるあかぎれの手の妻に触れてる

第25回 (令和元年度)

福井県 後藤 由美子

亡母が切りたる最後の稲藁を大根の畦にそっとかけゆく

第24回 (平成30年度)

千葉県 小林 功

母の背である日見上げた赤とんぼ今は背負った母と見ている

第23回 (平成29年度)

長崎県 牧野 弘志

この道がパーズンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

第22回 (平成28年度)

福井県 岩崎 大朔

十年前抱いた夢を持ち続け明日もお前と白球を追う

第21回 (平成27年度)

千葉県 河野 雅子

車椅子に息子を乗せし老夫婦鴨の群れゐる岸辺押しゆく

第20回 (平成26年度)

千葉県 河野 成実

ふるさとの駅をすぎれば車窓より子らの声なき学校の見ゆ

第19回 (平成25年度)

福井県 北野 よしえ

台風は過ぎて秋晴れコシヒカリをひとかぶひとかぶ手で起こしやる

第18回 (平成24年度)

千葉県 佐藤 清子

汲みおきの水とり代える幸せを震災前は思い及ばず

第17回 (平成23年度)

富山県 村沢 清人

あるだけの飼料を撒き終え被曝地の養豚農夫去り難く泣く